

教育振興運動メールマガジン

「みんなで教振！」通信 ～ 今こそ“地域の底力”で立ち上がろう ～

---

< 目 次 >

- 1 【教育振興】地域即学校・大人即教師
  - 2 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録
  - 3 【編集後記】あつしのひとりごと
  - 4 【みんなの声】復活の“ぺっこ言い隊”
- 

1 【教育振興】地域即学校・大人即教師

東日本大震災津波により1学期の始まりが遅れたことから、夏休みを短くした学校も多くありますが、県内の小中学校は今週あたりから夏休みに入ります。学校では、1学期の教育活動を振り返る会議が行われる時期ですが、家庭や地域においても、子どもに関わってきた活動の中間総括をすることが大切です。

子どもたちの健全育成のために取り組んでいるのであれば、ねらいが達成されているかどうかを確認する必要があります。保護者や地域の働きかけによって子どもたちが「どのように変わったか」を評価することで、自分たちの活動の成果を確認することになります。

子どもたちの抱えている課題を解決するために、子ども・保護者・学校・地域・行政が役割分担を決め、それぞれが責任を持って取り組む運動のことを「教育振興運動」と言うのですから、子どもに関わる組織はみな、教育振興運動に取り組んでいると言ってよいでしょう。

学校が自分たちの教育活動を自己評価するように、1学期の保護者の取組状況をPTAが、地域の取組状況を子ども会や自治会が自己評価し、その反省点を踏まえて2学期の活動に取り組みましょう。今からでは難しいのであれば、夏休み中の取組の評価を含めて、2学期早々に調査してみたいかがでしょうか。

『地域即学校、大人即教師』。これは、岩手県PTA連合会が発行するPTA広報紙「PTAいわて」7月30日号で紹介されている岩泉町立国見小学校PTAの合言葉です。地域は、子どもが様々なことを学ぶ「学校」であり、保護者や地域の方々といった大人はみな、子どもにとって「教師」である・・・ということです。地域や大人のあり方として、心に留めておきたい言葉です。

---

## 2 【 教振は今 】 教ちゃん、振ちゃん見聞録

(振ちゃん) ねえ、教ちゃん。このチラシを見て！

チラシ⇒[http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/H23tanohata\\_hyousatu.pdf](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/H23tanohata_hyousatu.pdf)

(教ちゃん) なに、振ちゃん。急に・・・。

(振ちゃん) いいから、見てよ。

(教ちゃん) わぁ。いいわね。楽しそうだし・・・。

(振ちゃん) でしょう。震災で被災された皆さんが仮設住宅に入居するようになったけど、仮設住宅はみんな同じ建物で、どこに誰さんは暮らしているのか分からないもん。

(教ちゃん) そうね。それに、今までとは違う新しい近所付き合いを始めるにあたって、顔見知りになったり、仲良くなったりするきっかけづくりになるわね。

(振ちゃん) うん。仮設住宅での地域コミュニティづくりとして、とても参考になる取組だよ。10月には、第2弾の企画があるとのことだけど、やっぱり定期的に継続することが大切だよな。

(教ちゃん) 本当にそう思うわ。

(振ちゃん) そういえば、久慈市の中央公民館は「勉強ができる公民館」として、高校生に夜10時まで開放しているんだよ。

(教ちゃん) へえ～。

(振ちゃん) サークル活動の場だけではなく、新しい公民館のあり方として参考になるんじゃないかな。仮設住宅の集会所でも、そういう場を提供できるといいよね。

(教ちゃん) 今日の振ちゃん、いつもと違うわね。何か拾って食べたの？

---

## 3 【編集後記】 あつしのひとりごと

子ども支援のNGO団体「セーブ・ザ・チルドレン」が、東日本大震災支援活動の一環として、宮城（石巻市・東松島市）・岩手（釜石市・陸前高田市・山田町）の両県5地域の小中学校・高校89校を対象に意識調査を行いました。調査結果⇒[http://www.savechildren.or.jp/jpnem/jpn/pdf/20110613\\_research.pdf](http://www.savechildren.or.jp/jpnem/jpn/pdf/20110613_research.pdf)

調査の結果、有効回答数約11,000人のうち、約9割の子どもたちが「自分のまちのために、自分たちも何かをしたい」、約8割の子どもたちが「自分のまちを良くするために、人と話をしてみたい」と考えていることがわかりました。

「話をしてみたい相手」は誰かと聞いたところ、「子どもたち同士」が21.3%、「地域の人たち」が17.2%、「親」が5.8%となりました。この3つを合わせれば40%以上となります。自分の住む地域のあり方や将来の姿について、地域の一員として地域に住む皆さんと一緒に話がしたいと思う子どもたちの気持ちを大切にしたいものです。

郷土の歴史を知る活動だけが地域理解ではありません。現状を考え、未来を創る活動に子どもたちが参加し、地域の現状を把握することも地域理解です。地域を創る活動に参加すると、地域に一層の愛着を持つのではないのでしょうか。

---

#### 4 【みんなの声】復活の“ぺっこ言い隊”

いつも楽しく拝見しております。久しぶりにメールします。

先日、小学校から「家庭で使っていない扇風機があったら譲ってほしい」との連絡があり、我が家から1台持って行きました。この暑さなので子どもたちも大変だろうし、そんなことで役に立つならと提供した次第です。

前回の「教ちゃん、振ちゃん見聞録」にも家族団らんの話を書いてありましたが、扇風機が置かれることにより、学校の中で節電や地球環境など生活に身近な話題が取り上げられることを期待しています。

それと、子どもたちには、扇風機1つではありますが、地域とのつながりを感じてほしいですね。  
(H町Cさん)

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ [21kyoushin@gmail.com](mailto:21kyoushin@gmail.com)

⇒ 祝！第50号は、8月9日（火）配信です。

★バックナンバー（第1～46号）はこちら。

⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk\\_bn.html](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_bn.html)

★全県共通課題（家庭学習と読書推進）の実践事例はこちら。

⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk\\_zj.html](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_zj.html)

★メルマガで紹介しました資料はこちら。

⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk\\_s.html](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_s.html)

～～～配信元～～～

\*岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

\*発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気あなたから作りだしてください。

～～～